

# 認定農業者だより Next Step

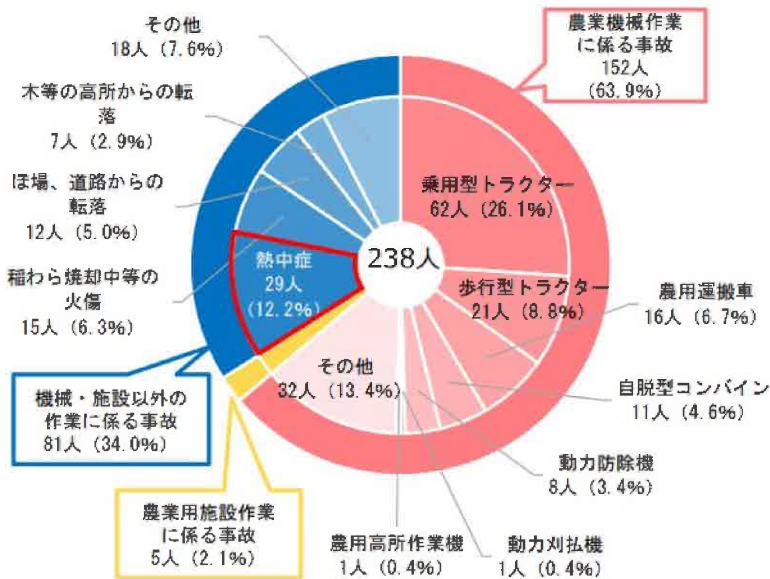
玖珠九重版 令和6年 4月  
 大分県西部振興局 生産流通部  
 T e l : 0973-23-2217  
 F a x : 0973-23-3473  
 E - m a i l : a11610@pref.oita.lg.jp  
 記事へのご意見等をお寄せください

## 春の農作業安全確認運動について

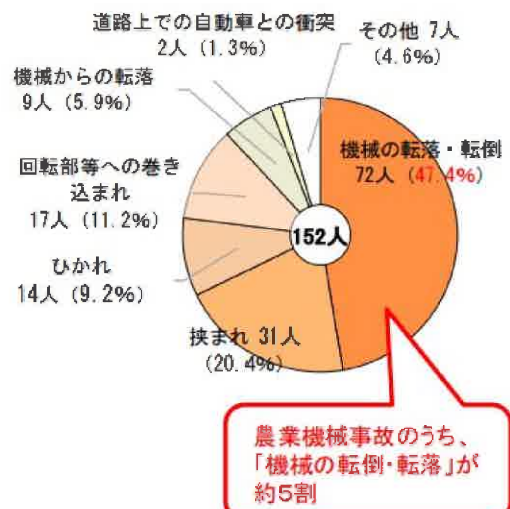
春作業が行われる3～5月は、農作業安全確認運動の重点期間に設定されています。農業機械作業に係る死亡者数は依然として高い水準にあり、事故防止のため日頃からの安全確認強化が重要となります。

### 令和4年に発生した農作業死亡事故の調査結果

〈要因別の死亡事故発生状況〉



〈農業機械事故による死亡の要因〉



農業機械事故のうち、「機械の転倒・転落」が約5割  
 出典：農作業死亡事故調査（農水省）より

## ○事故防止のため農業機械の転落・転倒対策の徹底しましょう

乗用トラクターなどの農業機械の転落・転倒による死亡事故が多く発生していることから、事故防止と被害軽減の両面からの対策を徹底しましょう。

### 【被害軽減対策】

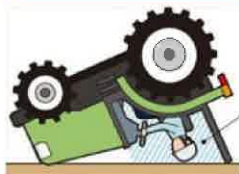
- ・シートベルトとヘルメットを着用
- ・安全フレーム付きトラクターの利用

シートベルトなし



体がどこに飛んでいくかわからない  
下敷きになる恐れも

シートベルトあり



安全域にとどまることができる

シートベルトの着用により  
転落・転倒時の死亡率は 1/8 に！

出典：農作業安全対策（農水省）より

### 【事故防止対策】

- ・ほ場周辺の危険箇所の確認・危険回避行動の実践（危険箇所での減速、迂回ルートの設定など）
- ・危険箇所の改善（道路端や曲がり角の草刈り、路肩の補強など）



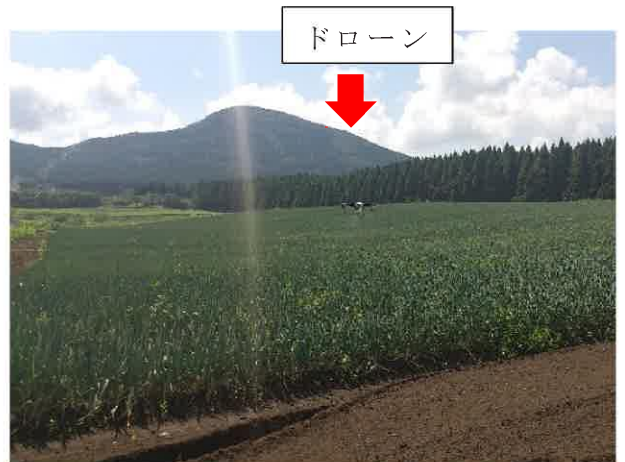
出典：農作業安全のススメ（ヤンマー）より

（営農推進班 後藤）

# 白ねぎのドローン防除の実証結果について

## <実証の概要>

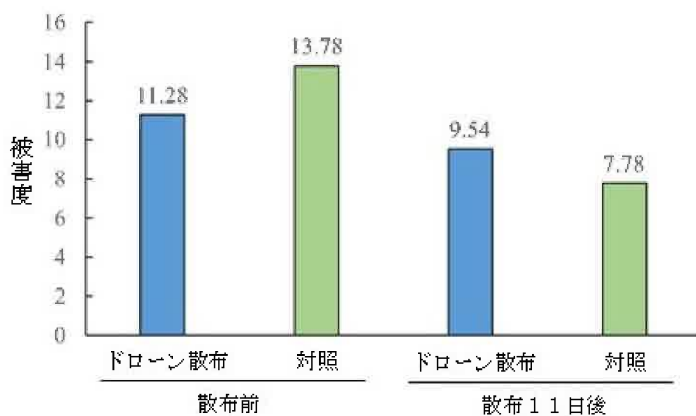
- 1) 実証場所 九重町滝上白ねぎほ場  
ドローン散布区 70a、対照区（動噴使用）30a
- 2) 防除実施日 令和5年8月21日
- 3) 使用薬剤  
ドローン散布区 ベネビア OD  
対照区（動噴使用） グレーシア乳剤



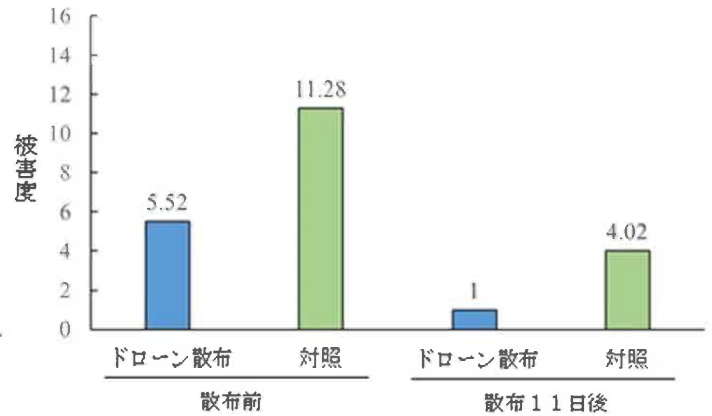
## <調査結果>

- ドローン散布に要した時間は 24 分/70a でした。当日は風速 2m 程度の風があり、薬剤が風にあおられる状況も見受けられました。
- 薬剤の散布状況を確認するためにほ場内に設置した「感水紙」（薬剤がかかると色が変わる試験紙）の反応状況は、設置した 5 カ所すべてで薬剤の付着が確認されました。
- 害虫被害について各害虫の「被害度」（害虫被害が大きい程、数字が大きくなる）をドローン散布区及び対照区で調査しました。調査した各害虫でドローン散布区及び対照区のいずれも散布 11 日目の調査で被害度が減少しており、防除効果が認められました（下図）。
- 被害度の減少程度については、ネギアザミウマ及びネギコガでは対照区の方が大きく、ネギハモグリバエではドローン散布区で大きくなりました（下図）。ドローン散布区と対照区で使用した農薬が異なるため、散布方法の違いの影響であるかは判然としませんでした。

[ネギアザミウマ]



[ネギハモグリバエ]



[ネギコガ]

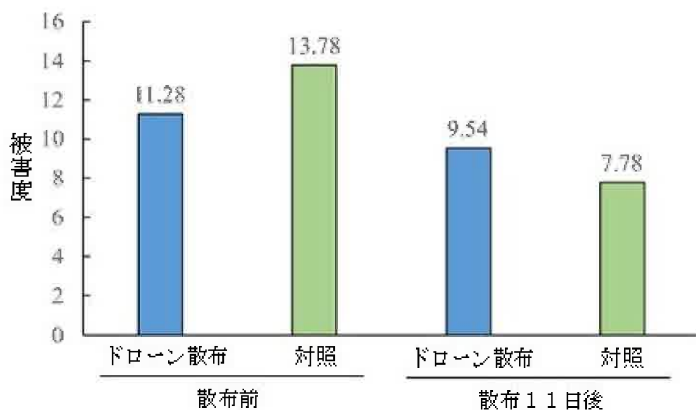


図 散布前後の各害虫における被害度

※被害度の数字が大きいく、害虫の被害が大きいくを示す。

☆薬剤選定やドリフト等については注意が必要ですが、今回の実証結果からドローン散布は白ねぎ栽培への技術導入が可能な技術であると考えられました。

（園芸第二班 大坪）

# 夏秋トマト栽培の外気導入による生産性向上の検証

夏秋トマト栽培の外気導入については、令和5年に農林水産研究指導センターで試験され、令和6年に九重町と荻町の計3ヶ所で現地試験が行なわれます。近年の気候変動による高温・高日射や梅雨時期の低日射による着果不良や障害果の発生に対して、送風機を使用して積極的に外気を導入し、ハウス内の気温低下や炭酸ガス濃度上昇による生産性の向上を目的に検証するものです。

## 検証内容

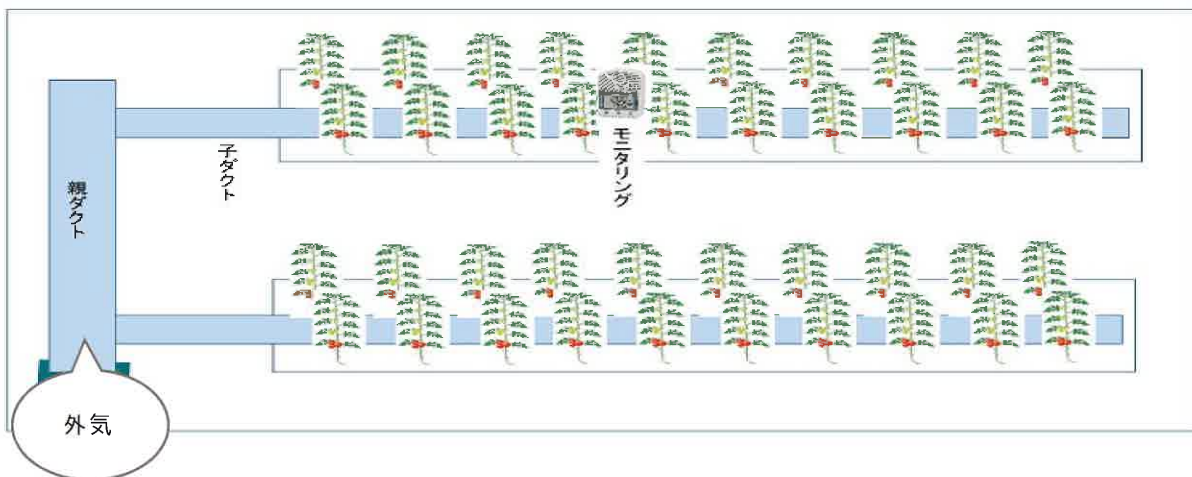
安価なファンを利用した積極的外気導入を行うことで、

- ① 炭酸ガス濃度上昇の効果
- ② ハウス内気温低下及び植物体温度低下の効果
- ③ 葉面湿度低下及び病害抑制の効果を検証

安価なファン:両ラッパ型送風機  
(外気導入装置)



外気導入イメージ図



## 栽培概要

- ① 栽培様式 雨よけハウス(間口6m、換気扇なし) 土耕栽培
- ② 外気導入 風量 27 m<sup>3</sup>/min 程度を想定  
稼働期間:6月上旬(最低気温16℃以上)~10月上旬(最低気温16℃以下)  
稼働時間:24時間

※農林水産研究指導センター(気温、炭酸ガス濃度、湿度、植物体表面温度等環境データ収集)、生産者(収量調査)、振興局(生育調査)とで協力して行ないます。

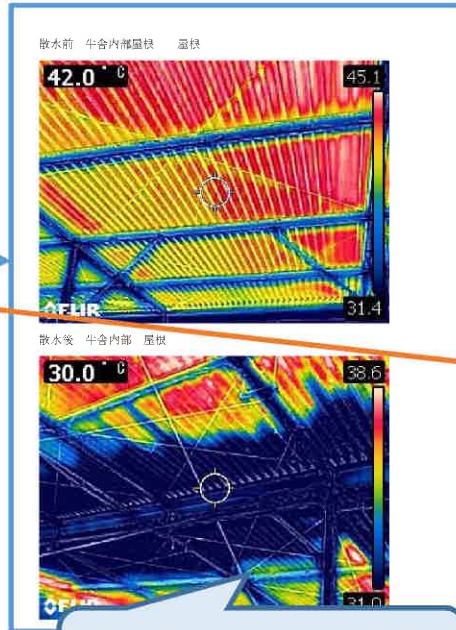
(園芸第二班 小野)

# 畜産農家のみなさまへ

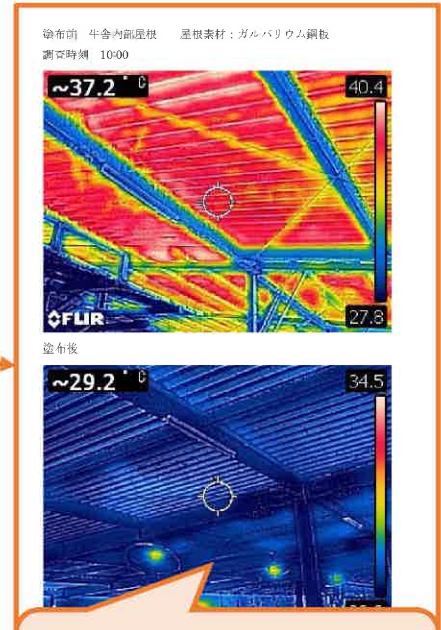
【夏に備えて暑熱対策を考えてみませんか？】

## 【屋根・壁等の遮熱】

- 屋根からの<sup>ふくしゃ</sup>輻射熱を抑えましょう  
屋根への散水  
遮熱塗料の塗布  
断熱資材の設置
- 直射日光を遮りましょう  
スタレや寒冷紗の設置  
日陰樹の植樹



散水前後の屋根裏温度差  
△12.0℃



遮熱塗料有無の屋根裏温度差  
△8.0℃

## 【ミスト・ファンの設置】

- 噴霧や送風で舎内の温度や牛の体感温度を下げましょう  
ミストの設置  
ソーカーの設置  
換気扇の設置  
サイクロンファンの設置

飼槽コーティング後  
標準乳量 1.8kg アップ! (1~12月平均)

## 【飼養管理の工夫】

- 冷たい水が十分飲めるようにしましょう  
給水量の確保  
水槽掃除
- 飼料給与を工夫しましょう  
良質で消化のよい飼料の給与  
涼しい時間帯の飼料給与  
飼料の少量多回給与  
飼槽の清掃  
こまめな餌寄せ  
必要に応じたビタミンやミネラルの給与
- 毛刈りをして牛の体表面からの放熱を促進しましょう



コーティングすることで  
きれいに清掃しやすくなるので、夏場における飼料腐敗が減り残飼が減って、採食量の向上につながります!

餌寄せロボット導入後  
標準乳量 2.2kg アップ! (4~12月平均)



\*それぞれの牧場に合った暑熱対策を検討してみましょう!

(畜産班 中島・野原)